

【中学校 英語】

全国学力・学習状況調査 今治市の各教科調査結果の特徴

1 平均正答率等について

本市の中学校英語の平均正答率は44%で、全国の平均正答率と比べ▼1.6%下回り、県の平均正答率を比べ△1%上回りました。

学習指導要領の領域別に見ると、「読むこと」の領域で本市の平均正答率51.7%（全国51.2%、県48.9%）を上回り、「書くこと」の領域で本市の平均正答率20.3%（全国23.4%、県20.7%）下回っています。

評価の観点別に見ると、「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の両観点共に、県の平均正答率を上回っているものの、全国の平均正答率は下回っています。

問題形式別に見ると、「選択式」および「記述式」問題では、ほとんど差異は見られなかったものの、「短答式」で全国及び県平均を下回り、「短答式」に課題があることが伺えます。

正答数分布グラフからは、17問中、正答数7問の割合は全国及び県の平均正答率とほぼ同じですが、11問前後の正答数は全国及び県の平均正答率より高く、それ以上の高得点割合は低いのが、本市の特徴です。

2 特徴が見られた問題

問題別に見ると、よくできていたのは「図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する」という問題（全国△9.7%、県△12.2%）であり、「知識・技能」を問う「選択式」の問題でした。

課題が見られたのは、「1」(1)ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する」という問題（全国▼5.8、県▼2.3）であり、「知識・技能」を問う「選択式」の問題でした。また、問題形式別に見ると、「短答式」の正答率が低い傾向が見られます。

3 これからの学習に当たって

上記「1(1)」はリスニング問題であり、英語を聞く力に課題が見られます。ALTの有効活用はもとより、授業の中に対話的な学習を多く取り入れることで、英会話力の向上を図ることが必要であると考えます。また、1人1台端末の機能の中には、音声を聞くだけでなく、音声を録音する機能もあるため、ICT機器を効果的に活用し、課題克服につなげていくことについても同様です。

全体を通して、「短答式」の問題に課題が見られるため、普段の学校生活から、文章を書く力の育成を意識的に行う必要性があると考えます。特に、端的に自分の言いたいことを説明する力や物事の骨子を見極める力の育成を図ることが大切であると考えます。

1 (放送問題)
話される英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を、それぞれ1から4までの中から1つ選びなさい。

(1)

	
	